
うささん

uyr yama

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うささん

【Nコード】

N6996S

【作者名】

u y r y a m a

【あらすじ】

2匹のペットに囲まれた、勤労学生のお話。

疲れた体でバイトから帰ってくるなり、癒しを求めてうささんの頭を優しく撫でようとする。

が、お腹がすいてて機嫌が悪かったのだろう。

首を勢いよく傾げて、耳でパシンと撫でようと伸ばした手を叩かれた。

噂に聞くとところによると、ウサギにとって長い耳は弱点だとかないとか……

ウチのうささんは、普通のウサギではないのだろうか？

などと埒もないことを考えながら、うささんとねこさんに餌を与えた。

続いて自分の分のご飯…… コンビニ弁当（涙）をチンすると、背後からウニヤウニヤ抗議の鳴き声が聞こえてくる。

……なぜだろう？

うちのうささんは肉食なのだろうか？

ねこさんに用意した猫缶を、自分の餌も食わずにねこさんから強奪してるではないか。

まあ、いつものことだが。

食ったら腹を壊すんで、急いで駆けつけ猫缶とねこさんを保護。

ってか、いつも距離おいて餌与えてるはずなのに、なんでいつもつもお前はねこさんの餌を奪いに来る？

そんな思いを込めてキツと睨むも、うささんはすでに自分の餌を夢中で食っていた。

疲れた。

軽く肩を落としながら丁度温め終わったコンビニ弁当を電子レンジから取り出し、テーブルの上に猫缶といっしょに置いた。椅子を引いて座ると、もう猫缶しか見えてなく、腕の中に暴れ倒すねこさんをテーブルの上で放ち、一緒にごはん。

ああ、なごむ。

バイトの疲れがもりもり減っていく。

にしてもお前、猫のくせになんでウサギに負けるんだよ。などと小さく笑った瞬間。

「アーっ!？」

いつのまにやら足元に忍び寄っていたうささんに、ガブリと噛まれた。

足に穴があく。

まあ、これもいつものことだが。

涙目で噛まれた場所を撫でながら、ぶつぶつ豚みたいに鳴いているうささんを睨んだ。

……なにこれ可愛いじゃねーか。

うささんにメロメロな俺は、しょせんはうささんに勝てるはずもなく。

うささんに負けっぱなしの、ねこさんを笑えるはずもなく。

ふう、癒される……

2匹のペットに囲まれた、俺はきつと幸せなんだろう。

……
……
彼女いないけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6996s/>

うささん

2011年10月7日00時32分発行